

## 集会アピール(案)

2016春季生活闘争は、いよいよ最初のヤマ場を迎える。

日本経済の現状は、日銀がサプライズといえるマイナス金利政策を行ったが、効果は上がらずアベノミクスは行き詰まりの道へと進んでいる。

金利を下げるだけで、「デフレからの脱却」と「経済の好循環実現」がはかれるなど、経済の本質をまったく理解できていない愚策であり、この劇薬による副作用が危惧される。日本経済への良薬は、GDPの6割を占める個人消費を動かすことであり、それは賃金引上げに他ならない。

今、私たち労働組合が果たすべきは、すべての働く者が将来に対し希望が持てるよう月例賃金の引上げを持続することであり、とりわけ地場の中小企業や非正規雇用で働く仲間、労働組合のない職場で働く仲間の処遇の改善に全力で取り組むことである。

すべての労働組合が3年連続となる月例賃金引き上げを要求に掲げ、回答の引き出しに全力を尽くし、未組織労働者や最低賃金に波及させ、「クラシノソコアゲ」につなげていく。

そして、これまでの春季生活闘争のメカニズムを十分活かしつつ、従来の「大手追従・大手準拠」などの構造を乗り越える取り組みを行い、サプライチェーン全体で生み出した付加価値を適正に分配する公正取引の実現に労使で取り組み、その成果を社会的に波及させていく。

本集会を起点とし、職場・地域から闘いを巻き起こし、組合のない職場、パート・派遣で働く仲間とも連帯を深め、すべての労働者に2016春季生活闘争への参加と共同行動を呼びかけ、最後まで闘い抜くことを宣言する。

2016年3月5日

連合山形2016春季生活闘争勝利総決起集会